



岐阜中週報

CELEBRATE ROTARY

ロータリーを祝おう R.I.会長 グレン E.エステス シニア

会長 田邊 雅範
 幹事 中山 章
 発行者 ウェブ委員会
 委員長 大島 康之
 例会 毎週火曜日 12時30分
 会場 岐阜ルネッサンスホテル
 事務局 岐阜市神田町 2-2
 電話 264-9235 番

平成 17 年 4 月 12 日(火)
 第 609 号
 第 686 回例会

会長挨拶

会長 田邊 雅範

ライブドアとフジテレビによるニッポン放送争奪戦の報道では、勉強させられることも多く、興味深く推移を見えています。今回の株式買収の影響により今国会で審議される予定の改正商法案を一部変更するほどの大事件ともなっています。またこの争いの中で会社の「企業価値」という言葉が頻繁に登場しております。

このようなことが起きた背景には、上場株式の持ち合い構造が崩れ、株主の主役が銀行や企業に代わり個人投資家や外国人投資家が台頭してきたことがあるようです。また安定株主を頼っていたため、企業価値を高めるということを意識していなかったことも原因の一つかもしれません。

このような市場で会社が生き残るためには、企業価値を高めるための経営が重要になっています。企業業績を上昇させ株式価値を上げて株式時価総額を上昇させることが企業経

営には必要とされています。また、株主重視の経営政策により株主価値をひきあげることも重要だと言われています。

企業価値を高めるためには、長期安定的なキャッシュフローによる企業リスク低下に支えられた企業ブランド、効果的な投資家向け広報(IR というそうです)を通してのステークホルダー(利害関係者)への情報開示、企業の社会的責任(CSR というそうです)に対する関心の高まりに対応できる社会的・環境的価値を維持・向上させるための投資などバランスの取れた取り組みが必要という学者もいます。

株式会社はその原点に立ち戻り、企業は誰のものかというコーポレートガバナンス(企業統治)を意識して企業価値を高めなければ、「物言う株主」に対応できなくなってきたようです。

これらのことは私たちロータリアンの職業奉仕の精神に通じることもあると思います。経営する企業が人

に評価していただけるような事業を継続していくことが必要ではないかと感じています。

幹事報告

幹事 中山 章

*4月、5月は外部例会及び例会日変更がいくつかありますので各自予定確認を宜しくお願いいたします。

地区協議会の報告

次期幹事 内木一博

平成 17 年 4 月 3 日(日)三重県津市の三重県総合文化センターにおいて開催されました地区協議会に、出席要請された理事・委員長と共に 8 名で参加いたしました。

次期ガバナーはロータリークラブに危機感を抱かれ、変革を望まれているのです。そこで今年の地区協議会は例年と変わった形式で開催されました。

まず、第 1 に変化が目に見えるようにと例年会議開始時に歌われるロータリーソング「奉仕の理想」並びに最後の「手に手つないで」の斉唱がありませんでした。

前例会の記録

平成 17 年 4 月 5 日(火)

[点鐘] 12時30分

[ソング]

君が代、奉仕の理想

[ゲスト]岐阜中央郵便局

局長 柴田美弘様

[出席率]会員総数42名(出

席免除0名、猶予0名)

本日出席 27名64.28%

[行事] 会長挨拶 食事 幹事

報告 委員会報告 ニコボッ

クス報告

[卓話] 『郵便局について』

岐阜中央郵便局

局長 柴田美弘様

担当 副S A A

本日の予定

第 6 8 6 回

平成 17 年 4 月 12 日(火)

[行事] 会員卓話

担当 プログラム委員会

次回予定

第 6 8 7 回

平成 17 年 4 月 19 日(火)

[点鐘]

[行事] 愛地球博見学会

担当 幹事

そして、SAA・広報委員長が出席要請され、例年出席要請される米山奨学金、並びにロータリー財団の委員長には出席要請されませんでした。

さらに、会議は次期ガバナー補佐と会長エレクトによる討論会と、その他の役員らによる全体会議の2つに分かれただけで分科会はありませんでした。また、その内容には、会員以外の方によるロータリーの印象を伺う「外から見たロータリー」という内容も含まれていました。

つまり、ロータリークラブは宣伝下手で、外部の方には単なる「金持ちの昼食クラブ」でしかなく、そのためにこそ広報委員長に出席要請されたのであり、また魅力あるロータリークラブになるためには、その時間の大部分を占める例会に権限を持つSAAが、全体を認識しているべきだということで、出席要請されたものです。加えて、ややもすれば、寄付集め委員会と言われがちな米山奨学金委員会及びロータリー財団委員会の委員長に出席要請がされなかったのは、その重要性ゆえに単に1委員会だけの問題ではなく、クラブ全体で考えるべき問題だという趣旨でした。

(以下資料より抜粋)

2005～2006年度委員会活動方針概要財務委員会

1. 「地区組織に関する要覧」の定めるところに従い、地区運営に必要な費用を検討、調査して地区資金の運営管理を行う。
2. ガバナーと協力して地区経費の予算を作成する。
3. 予算に基づき地区資金の受払いを行うとともに、その収支を正確に記録する。
4. 地区収支及び財務状況について決算書の作成並びに会計監査を行う。

職業奉仕委員会

1. ロータリークラブ会員の皆さんと共に有益な事業の活性化を図るためにロータリーの綱領に則って時代に即した発想を探索する。
2. ロータリークラブ会員の皆さんと共にロータリーの大切な財産である職業分類の手法を徹底研究して広く人材を求める。

地区奉仕委員会

ロータリーの歴史と理念に立脚して、当地区及び各クラブが適切にかつ健全に発展することを目的に諮問委員会上程以前の重要案件やクラブ、地区を超える諸問題への対応と審議を通じてガバナーの実務的諮問に応えることを主な活動とする。

ロータリー家族委員会

ロータリアンとその家族からなるロータリー家族を大切に考える活動展開について地区内クラブへのアンケート結果を踏まえ、さらにクラブでの活動浸透を考えると共に、「Rotarian's Family」から、家族だけでなく、ロータリーに関係している人材すべてを巻き込んだ「Family Of Rotary」への考え方の拡大を検討する。

広報委員会

会員にロータリアンをより強く意識していただくための情報を地区内各クラブの会長や広報委員長に提供を行い、広報活動の充実を図りたいと考える。またRI広報賞に加え地区広報賞も引き続き実施の方向で考える。

拡大増強委員会

拡大増強に関するセミナーを関係する委員会と合同で実施すると共に必要に応じてクラブ卓話としてのスピーチや拡大増強に関わる諸会議への参加・資料提供を行う。また女性会員の集いを実施する。

環境保全委員会

地区内の環境に対する考え方に温度差を感じるが、RI会長の重要な項目にも「水保全」が取り入れられるなど、今後さらに地域環境への関心は住民の間で深まるであろうし、深めていかなければならない。さらに各クラブへ環境問題への取組みを促していく。今年度は三重県で環境セミナー開催を検討する。

青少年育成委員会

青少年教育は今、最も重要な課題の一つとなっている。今年度も学校・地域・保護者が一体となった青少年教育を行うために活動展開する。また地区のホームページへの「講師派遣」と「職場体験受入れ」についての登録をより簡素化できるよう改善したい。同時にホームページの拡充を行う。また将来、地区内分区分別地区委員選出を行い、ガバナー補佐と協力して分区内クラブをまとめていくことが必要と考える。

1. 登録における内容と地域分析
2. 学校区単位でのクラブの対応(働きかけとニーズ)
3. 学校からの報告書と本人あるいは職場体験事業者からの報告書の提出
4. その他、職場体験における傷害損害保険等について

インターアクト委員会

当委員会は、2004～2005年度と同様に国際理解・奉仕活動(ボランティア活動)がどれほど重要であるかをインターアクトの年次大会及び各地区4ヶ所で開催される地区協議会を通して理解してくれることを期待し、努力すると共に、インターアクトクラブの健全な運営支援と、2ヶ国(韓国第3600地区・米国第5200地区セリトス)との交換交流を今年も継続していきたいと考える。また、年一度の高校顧問教師とロータリアンの合同教師部会で、より一層のインターアクター達への指導と協力を

お願いし、インターアクターの増員と自ら進んで活動できるようになることを願って活動していきたい。同時にインターアクトクラブを提唱していないクラブへこの事業に対する理解とクラブ実現をお願いしていきたい。

ローターアクト委員会

提唱ロータークラブの近隣地域内に居住、就職、就学している 18 歳から 30 歳までの青少年によって構成され、ここの指導能力開発、道徳と人間尊重、奉仕と世界平和を推進するものを養成し、行動を起こすことがローターアクトクラブの目的である。近年海産クラブが続出する中で、もう一度このプログラムの目的を考え、各ロータークラブに伝える中で理解を得てクラブ拡大を目指したい。

米山奨学委員会

寄付金の落ち込みにより、今年度当地区の奨学生は 2 1 人から 1 6 人に減少した。奨学事業の 2 0 % 減である。このままだとその存続さえも危ぶまれる。米山奨学事業を存続させるには寄付金の増額が必要である。そのために奨学事業に対する理解を深めていただくことが必要と考え、以下の事業を計画する。

1. 昨年に引き続き元米山奨学生「梁天任・二胡コンサート卓話」を行う。
2. 大学から遠くて米山奨学生の世話クラブができないクラブに奨学生のホームステイをお願いし、コミュニケーションを図ると同時に、米山奨学事業に対する理解を深めていただく。
3. 元米山奨学生のロータリアンに「里帰り卓話」をお願いする。
4. 地区委員及び米山奨学生による各クラブでの卓話を積極的に行い、米山小額事業への理解を深めていただく。

国際青少年交換委員会

ここ数年、派遣学生の申し込みが減少している。当委員会として原因が何かを見つけ、次の行動に移さなければと思っている。前期の活動計画でも述べたが、一部は日本経済の状況、アメリカ・ニューヨークでの同時多発テロ後の外国への交換学生希望者が減少傾向にあるように思われる。また企業がビジネスとして行っている留学プログラムが多様化し、それらに参加している学生の増加、またホストクラブ、派遣学生にかかる経費の負担等もあるのではないかと考えている。

現在、国内全地区で当 2630 地区は交換留学生制度の実績は全国一を誇っているが、2004～2005 年度交換派遣を 8 名できるところ、5 名の募集で 2 名は受入れだけとなった。前述のとおり減少が目立つ。今回地区内 8 0 クラブへのアンケート調査協力依頼を行い、その結果に基づき、量から質への転換を図り、素晴らしい青年を世界へ派遣したいと考えている。私たちが関わっている交換留学生制度が他の制度と比べ、いかに安全であり、安価であり、しかも私たちロータークラブの奉仕活動としても非常に重要なものであることを訴えていきたい。

次世代のグローバル社会を担う有能な若者を育てることの大切さを各クラブへ訴えると共に、今までにこの交換学生事業に対して 1 7 クラブが未経験であり、積極的な参加を呼びかけていきたい。

ローター財団委員会

ローター財団の基本的な理解、即ち財団活動はローターの綱領と使命の実践であることを確認し、その具体的な理解を深めることを今期の目標とする。

1. 即ち財団活動は、社会・国際奉仕活動の一環であり、単なる寄付集め

ではない。

2. その財政活動としての人道的分野(地区補助金)及び教育的分野(奨学金)のプログラムをより成熟させる。
3. その裏づけとして、全会員毎年 1 人 \$ 100 運動と、ロータリアンクレジットカード保有率日本 NO.1 維持キャンペーンを続けていく。

ローター財団補助金委員会

地区ローター財団委員会は、地区財団活動資金(DDF)の配分と用途を決定する責務を負っている。そしてガバナー及びガバナーエレクトと協議しシェア配分を決定する。補助金委員会は、各ロータークラブが人道的補助金を申請し最終報告提出に至るまでの指導援助を行う。

ローター財団推進委員会

1. 会長エレクト研修セミナー、地区協議会での各クラブへの寄付要請に始まり、各クラブの寄付目標額提出を協力要請する。

Every Rotarian Every Year

(E・R・E・Y)

毎年あなたも 100 ドルを！(毎月 1,000 円の寄付で達成できます。)推進目標額 一般寄付額 44 万ドルを達成する。ベネファクター寄付会員の増強(各クラブ 1 名以上の増員)

2. 財団プログラムを実践するために寄付が必要であることを、ローター財団月間及び年間を通じて各クラブに卓話者を派遣する。また、ガバナー月信を通じて情報を発信し、財団に対する会員の理解を深め、各クラブの意識の高揚に努める。
3. ロータークレジットカードの加入促進に取り組む。各クラブ財団委員長に新規入会者の具体的な件数の協力をお願いする。

ローター財団奨学金委員会

国際親善奨学金、平和奨学金、ジャパンプログラムの三つの事業を行う。

ロータリーの事業の根幹である奨学金制度の趣旨に鑑み、有意の人材を得て研鑽の機会を与え、帰国留学生には学友と協力して、その組織を強化し社会貢献の推進に努める。同時に奨学金を使って留学する学生、特に国際親善奨学生にはロータリーに対する認識を更に良く理解させるよう、その必要性を各クラブと共に徹底して進めていく。

ロータリー財団学友委員会

学友(奨学金制度で送り出した学生)とスポンサークラブの密接な関係ができるようなシステム作りと、学友が地区大会や IM の機会にロータリアンと接することができるようにし、また各クラブでの卓話の機会を増やしていきたい。今まで学友の追跡調査ができていなかったことで、名簿作りを行ってきたがもう少し整備に取り組み。

ロータリー財団 GSE (研究グループ交換)委員会

この事業は、1972 年ニュージーランドの当時 294 地区(現 2940 地区)とで始まった。予算的な面から 3~5 年ごと(現在は 3 年ごと)に相手先

をその都度ガバナーエレクトがみつめて行ってきた。今回米国 5190 地区と 04~05 年度に GSE チームを派遣(4/24~5/23) 05~06 年度に受け入れを行う。受け入れで来日(10~11 月予定)する GSE メンバーの情報を詳細に取り入れ、地区内 12 分区のガバナー補佐の協力のもと GSE メンバーたちが効果的に研究できるよう各クラブに対応を依頼する。

世界社会奉仕(WCS)委員会

地区内すべてのロータリークラブに他国のロータリークラブと世界社会奉仕プロジェクトの提携を奨励すると共にアドバイスをロータリー財団委員会と連携して行う。また活動に必要な地区会員からの拠出金が会員の減少と共に減少しているので拠出金の今後についても検討していく。

(以上資料 P.22~P.25 抜粋)

友情と奉仕の灯を スマイルボックス委員会

馬場秀幸君 地区協議会に出席して参りました

松井順五君 次男が社会人になりました。

お誕生日おめでとうございます

安藤元一君

大島康之君

高橋慶太郎君 今後共健康に気をつけて真面目に生きていきます。

結婚記念日おめでとうございます

田辺雅範君 m-740407 が私の携帯メールアドレスです。結婚した日を忘れないようにと。しかし、妻のメールアドレスは変えられてしまいました。

杉山正裕君 なかなか機会がなく、ニコボックスにごぶさたしていました。今日はしっかりと協力させていただきます。

音瀬晴夫君

内木一博君

